

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 泉が丘 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	139人	算数	139人	理科	139人
第5学年	国語	129人	算数	129人	理科	129人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

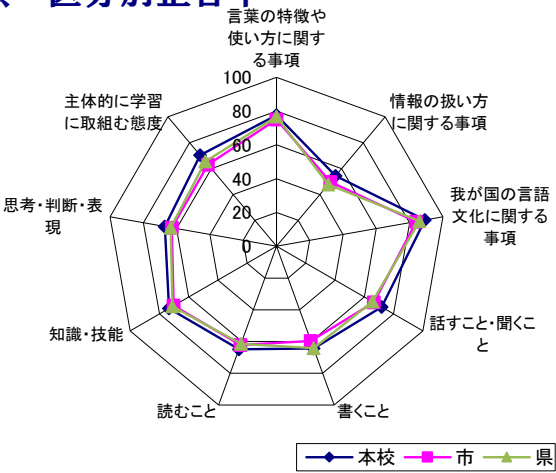
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.6	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	54.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	89.2	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	71.8	66.5	65.5
	書くこと	64.4	59.6	64.2
	読むこと	64.9	62.2	61.5
観点	知識・技能	73.5	70.2	71.1
	思考・判断・表現	67.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	70.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

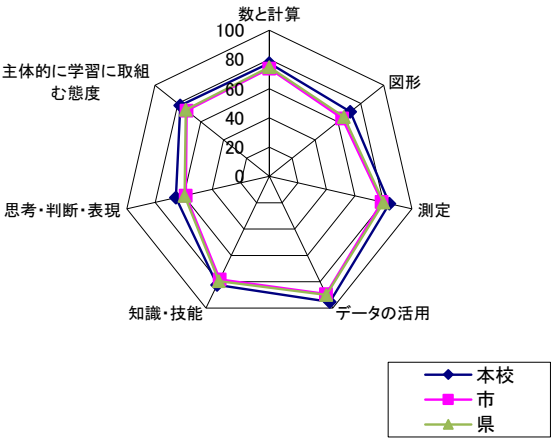
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は77.6%で、県平均と比べて0.9ポイント上回る。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く問題では正答率が56.8%であり、県平均と比べ、6ポイント大きく下回る。無記入であったり、漢字そのものが間違っていたりする誤答がある。	・朝の学習や宿題等で継続的に漢字練習に取り組み、定着を図る。また、課題の内容も、熟語の練習のみに限らず部首や画数に着目したり、熟語を使った例文を作るなど、児童の関心を高めるような課題の取り組み方も工夫する。また、国語科以外の学習活動で、日頃から正しい言葉や漢字を使うよう指導の充実を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は54.4%で、県平均と比べて6.6ポイント上回る。 ●情報と情報の関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心をとらえているかを問う問題では、県平均より上回るものの、5割を下回っており、無回答も多い。	・資料から読み取れることを自分の言葉でまとめたり、友だちと話し合ったりするような活動を積極的に行う。また、NIE活動に取り組み、日頃から新聞に親しみ、情報活用能力を高められるよう、指導の充実を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は89.2%で県平均と比べて3.3ポイント上回る。 ●国語辞典の使い方の理解については、県平均より上回るが、6割程度である。	・国語科の教材の意味調べなどで国語辞典を使う機会を増やし、使い方や語句の並び方など基本事項について正しく理解できるよう定着を図る。また、百人一首などの我が国の伝統的な言語文化についても児童が関心を高められるよう、指導の機会を増やしたり、情報提供を行ったりする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は71.8%で県平均と比べて6.3ポイント上回る。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、県平均より上回るが、7割程度である。	・国語科で学習した「話し方」のスキルを常に意識できるようにする。グループ等での話し合い活動の際には、「相手に伝わるように自分の理由を挙げて話す」ような活動を重視し、話す内容について観点を示して分かりやすく相手に伝えることができるようにするなどして、指導の充実を図る。
書くこと	○平均正答率は64.4%であり、県平均と同程度である。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、県平均を下回り、5割を下回っている。また、指定された長さで文章を書いていない児童も5割程度である。無回答であった児童も1割を超える。	・国語科のみにとどまらず、各教科等での考えをまとめる文章を書く際に、段落の役割について意識させたり、理由と事例をつなぐ文章の書き方に慣れさせたりする。「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようにしていく。
読むこと	○平均正答率は64.9%であり、県平均と比べて3.4ポイント上回る。 ●物語の内容を読み取る問題では、場面の様子について、叙述をもとに捉えることを問う問題で県平均と同程度であるが、正答率が23%で低い。	・教材の読み取りの際に、児童が叙述に沿って考えることを特に意識して教材文を読むよう、継続して指導する。話し合いで多様な意見が出た際にも、教材文の叙述を基にしているかを軸にして話し合いを深めるよう繰り返し指導を行う。段落の要点をまとめたり、場面の様子についてあらすじを端的にまとめたりする活動を通して、読解力を高められるようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.5	73.8	74.8
	図形	70.9	63.7	65.3
	測定	84.2	78.9	80.1
	データの活用	95.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	82.3	78.3	79.5
	思考・判断・表現	65.6	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	78.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

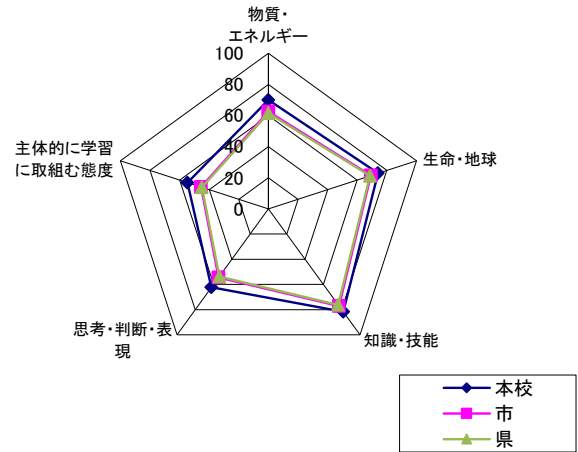
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は77.5%で、県平均と比べて2.7ポイント上回る。 ●文章問題を解くために除法の立式をし、正しい答えを求める問題では課題が見られる。特に何倍かを求める際に、除法の立式をする問題では、県平均と比べ5.4ポイント下回る。	・計算スキルやAIDリルを活用し、四則計算の復習を繰り返し行う。 ・単なる計算の技能の定着にとどまらず、数直線や図などを用いながら式の意味や筆算の仕方を考え、表現する活動を取り入れることで、基礎的な内容の確実な定着を図る。
図形	○平均正答率は70.9%で、県平均と比べ5.6ポイント上回る。 ●大きさが同じ6個のボールがはいっている箱の横の長さから、ボールの半径を求める問題では、県平均と比べ7.5ポイント上回るが、正答率は71.9%でやや低い。	・図形に関する理解や考え方を深めるため、形を分類したり、作図したりするという活動を積み重ねさせる。 ・具体物やデジタル教材等を活用し、立体のイメージをもたせるとともに、操作や観察を通して理解を深める。
測定	○平均正答率は84.2%で、県平均と比べ4.1ポイント上回る。特に、身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す問題では県平均を7.2ポイント大きく上回る。 ●2つの時刻の間の時間を求める問題では、正答率は78.4%で県平均とほぼ同じである。	・時計の長針が1周を超えたり正時をまたいだりする時刻や時間を求めることについては、模型の時計の針の動きを観察したり、数直線上の目盛りやその間について観察させたりすることを通して考えさせることで定着を図る。 ・長さや重さの単位については、体験を通して実感的に捉える機会を設け、量感を豊かにする。
データの活用	○平均正答率は95.3%で、県平均と比べ5.3ポイント上回る。特に、棒グラフの1目盛りの表す数を読み取る問題では、県平均を6.2ポイント上回る。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題では、県平均と比べて5.7ポイント上回るが、正答率は18.7%と低く無解答も1割を超える。	・グラフの読み・書きの技能の習得にとどまらず、同じグラフを異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較し、目的に合った目盛りを用いることができるようにする。 ・算数だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、どの部分に着目し、どのように読み取ったかを根拠を明確にして説明できるよう表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立泉が丘泉が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.0	62.5	61.5
	生命・地球	74.0	69.2	68.6
観点	知識・技能	81.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	62.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	54.7	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は70.0%で、県平均と比べて8.5ポイント上回る。特に「電気の通り道」に関する問題で県の正答率を大きく上回る。 ●「自由に動けるようにした磁石のN極は北を指す」ことを問う問題で、県の正答率を下回る。他の問題の正答率も県平均より高いが、54.7%、37.4%で高い正答率であるとは言い難い。 ●「種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかを資料から考える」問題の正答率は、県平均を大きく上回っているものの、33.8%と低い。	・問題の形式に慣れておらず、問いの条件や意図を読み取ることができていないと考えられる。このことから、普段の授業の中でも文章題をよく読み、問われていることに適切に答える機会を積極的に取り入れていく。 ・「物の重さ」では体積について考える問いの正答率が低かったことから、体積が何かが理解できていなかったと思われる。そのため、授業の振り返りの時間を充実させることで、学んだことを自分の言葉で表現する力を育て、確かな理解につなげたい。
生命・地球	○平均正答率は74%で、県平均と比べて5.4ポイント上回る。 ○「太陽と地面のようす」については、ほとんどの問題で県平均を上回る。特に影ふみ遊びについて記述で解答する問いでは、県平均を12.2ポイント上回っている。 ●「虫眼鏡の使い方を身に付けている」ことを問う問題では唯一県の平均正答率を大きく下回る。 ●「日なたと日かげの地面の温度の様子をもとに、日傘の下の方が涼しく感じる理由を推測する」や「太陽の動きとかげのでき方について、ぼうのかげを正しく記録しているものを選ぶ」の正答率は、県平均を上回るものの、40.3%、39.6%と他の正答率と比較して低い。	・虫眼鏡などの器具を繰り返し使うことで、使い方を確認して習熟を図る。 ・「太陽と地面のようす」の正答率の差から、体験することで得た知識を実験の結果として適切に表すことができていないと考えられる。このことから、身近な事象と学習が結びついていることに気付かせ、学習に生かす習慣をつけていく。 ・自分の考えをノートやプリントにまとめる場面を多く取り入れ、理由を明らかにして書き表す習慣をつけることで、思考力の向上につなげていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感じることもある」、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」については、肯定回答割合が高く、学習に対する意欲の高さが見られる。授業において、児童の興味関心を高める課題設定をしたり、課題を解決する楽しさを味わえるような学習活動を取り入れてきたりした成果がうかがえる。

○「本やインターネットなどを活用して、勉強に関する情報を得ている」では、肯定回答割合が市の平均と比べて5ポイント以上高い。図書資料に限らず、インターネットを活用する場面が増え、調べることへの意欲が高まってきている。今後もタブレット等を活用した学習を積極的に取り入れていきたい。

○「家で、学校の予習をしている」、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」では、肯定回答割合が市の平均と比べて8ポイント以上高く、宿題や自主学習等での家庭学習の習慣がしっかりと身に付いている児童が多いと言える。児童の意欲を高めながら、家庭学習が充実したものになるように支援を継続していく。

●「自分はクラスの役に立っていると思う」では、肯定回答割合が58.6%と市の平均を下回っている。一人一人が活躍する場や自他のよさを共有する場を設定し、お互いに認め合う雰囲気作りに努める。

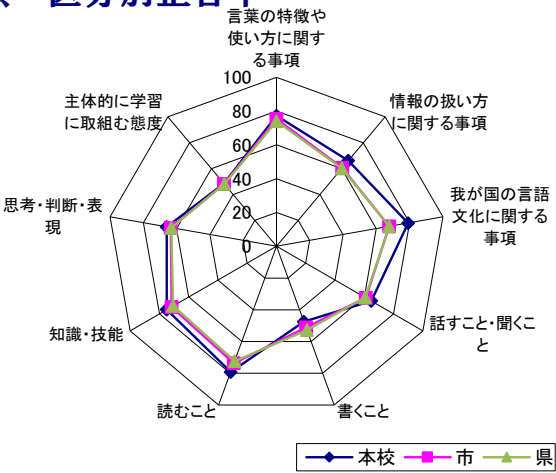
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、肯定回答割合が54.3%とやや低い。大勢の前で伝えることに抵抗感があると考えられる。授業でのペアやグループ等の少人数で伝え合う機会を増やすことで苦手意識を取り除き、自分の意見や考えを伝えることに自信をもたせていきたい。

●携帯電話やスマートフォンを持っている児童が半数を越えている。また、長時間使用している児童も見られる。家庭との連携を図り、タブレットの使用方法を含め、使用する際の決まりや約束、注意点などを確認したり、話し合ったりすることで、安全に使用できるようにしていきたい。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.3	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	66.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	79.1	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	64.7	61.0	60.7
	書くこと	47.5	51.2	52.8
	読むこと	79.2	73.7	72.4
観点	知識・技能	75.0	71.7	70.6
	思考・判断・表現	65.9	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	48.4	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

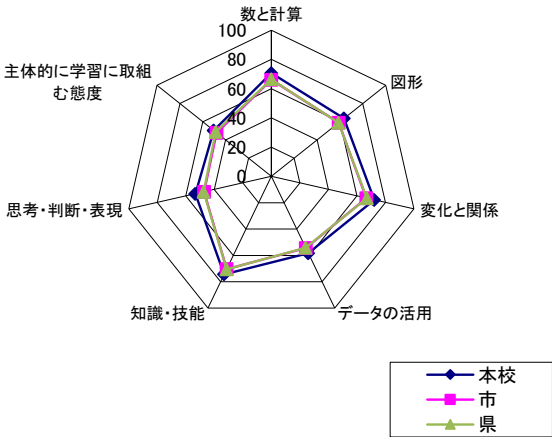
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は77.3%で、県平均より約3ポイント上回った。 ○漢字の問題は、どの字も県の平均正答率を上回っていた。 ●運用修飾語を選ぶ問題では、県平均の正答率24.0%を下回り、11.6%だった。	・漢字の問題は正答率が高いため、引き続きミニテストや漢字練習等で定着を図る。 ・文法について触れる機会を増やし、主語や述語、修飾語など、言葉の役割に注目させるながら文章を読んだり、書いたりするようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は66.1%で、県平均より約6ポイント上回った。 ○説明文の内容を読み取る問題では、全ての問題の正答率が県平均よりも高かった。	・書かれている情報を整理する力を高めるため、文章中のキーワードや接続語に印を付け、視覚的に分かりやすくする。 ・インターネットや本で調べ学習を行う際に、必要な情報を抜き出してまとめる活動を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は79.1%で、県平均より約11.3%と大きく上回った。	・友達のノート等で他人の文章を見る機会を設定し、自分の言いたい表現の方法は一つの言葉だけではないことを知り、多様な表現を使うよう、教科書にある「言葉の広場」や辞書の活用をする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は64.7%で、県平均より4%上回っており、全ての設問において県平均を上回る結果となった。	・司会者を立てて話し合う活動を通して、題意や話の流れに沿った自分の意見を言う場を積極的に設定する。 ・朝のスピーチなど、人前で話す機会を充実させる。
書くこと	●平均正答率は47.5%で、県平均よりも4.3%下回った。「書く」領域では全ての設問で下回っており、約20%が無回答であった。 ●段落の役割についての問題の正答率は、県平均の53.0よりも10.4ポイント低く、42.6%だった。	・無回答が多く、時間内に解き終わらなかった児童が多いと考えられる。時間を区切って問題を解く練習をしたり、文字数や段落数、各段落には何を書くのかなどの条件を設定した短作文等の「書く活動」を積極的に取り入れる。
読むこと	○平均正答率は79.2%で、県平均より約5ポイント上回った。「内容を読み取る」問題では、全ての設問において県平均と同等か上回る結果となった。 ●登場人物の気持ちを読み取る問題では、県平均を上回っているが、正答率は55.8%と低かった。	・読み取りの力は高く、読書好きな児童が多いからだと考えられる。引き続き、読書量を確保できるようにする。 ・授業中の読み取りでは、理由を表す言葉や接続語に注目して印を付けるなどし、教科書の言葉を基に文章の内容を読み取る場を設定する。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	66.1	66.4
	図形	63.5	58.9	58.8
	変化と関係	72.2	66.6	67.0
	データの活用	58.3	54.4	54.2
観点	知識・技能	74.4	70.4	70.6
	思考・判断・表現	53.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

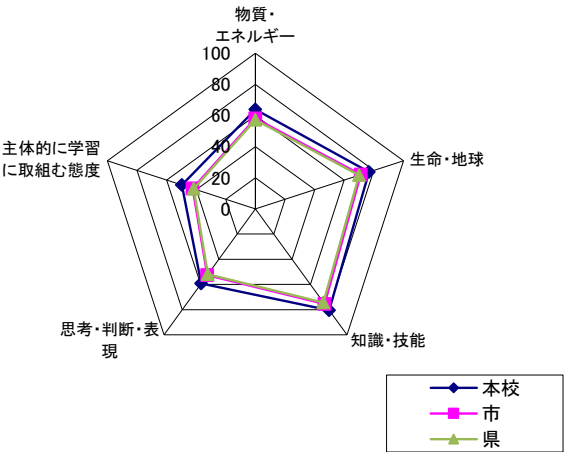
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は70.7%で、県平均と比べて4.3ポイント高い。特に「小数第二位÷整数=小数第二位(商が純小数)」の計算では10.1ポイント、分配法則の理解については13.1ポイント、県平均を大きく上回った。	・AIDリルなども活用して、学習内容のさらなる定着に努める。 ・分数や小数、概数の範囲などを扱う際には、数式の処理に留まらず、数の表す量を把握できるよう、図や数直線を用いて指導する。
図形	○平均正答率は63.5%で、県平均と比べて4.7ポイント高い。特に「360°より小さい角の大きさを求める」問題と「複合図形で、面積の求め方や式を表した図を選ぶ」問題では県平均を11.3ポイントと大きく上回った。 ●「平行四辺形の作図」の問題では、正答率が県平均を5.3ポイント下回った。	・作図など、従来通りの手指を操作する学習も十分に行わせたい。 ・教室の面積の見当をつけることなど、学習した内容を実生活に生かせるよう、体験的な学習の機会を積極的に取り入れる。
変化と関係	○平均正答率は72.2%で、県平均と比べて5.2ポイント高い。特に「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題では県平均を10.3ポイントと大きく上回った。	・AIDリルなども活用して、学習内容のさらなる定着に努める。 ・2つの数量の関係について自分の言葉で説明するなど、多くの児童が苦手と感じている学習にも取り組ませたい。
データの活用	○平均正答率は58.3%で、県平均と比べて4.1ポイント高い。特に「折れ線グラフから変わり方を読み取る」問題では、県平均を10.6ポイントと大きく上回った。	・学習した内容を、他教科の学習でも積極的に活用させたい。 ・二次元表など扱う機会の少ない内容については、家庭学習や朝の学習などで復習する機会を設ける。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.9	58.1	57.2
	生命・地球	76.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	80.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	59.3	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	49.7	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は63.9%で県平均と比べると6.7ポイント上回る。特に「物の体積と温度」について、温度による金属の体積の変化を説明する問題での平均正答率は、県平均より約15ポイント上回っている。 ●「水のすがた」について、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想する問題では、県平均より1.6ポイント下回った。	・既習の内容について家庭学習、朝の学習タイムなどで活用することで、さらに定着を図る。 ・理科の授業においては、仮説、実験、結果、考察の流れを意識した授業づくりに努める。また、考察や振り返りの時間を通して、科学的な思考を育てていく。 ・仮説や実験結果から考察することができるように、グループでの話し合いや、学級全体で共有する時間を取ることで、深い学びになるようにしていく。
生命・地球	○平均正答率は、76.7%で県の平均正答率と比べると6.7%上回る。特に「雨水のゆくえと地面のようす」について、土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を記述する問題では、平均正答率は67.4%で県平均と比べると13ポイント以上上回っている。 ●「月と星」の半月の1日の動きを問う問題では、県平均を上回っているものの、平均正答率が27.1%と低い正答率であった。	・月と星の動きについて、知識がより定着するように年間を通して月と星の観察をする機会を定期的に設けるようにする。 ・日頃から身近な自然の観察をし、既習の内容と結び付けて総合的に考える力を育てるようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についての肯定割合が高く、学習に対する前向きな気持ちが見られる。授業を進めるにあたり、興味関心が高まるように身近な生活から課題を取り入れたり、問題解決的な学習を取り入れたりするなど、自力解決の場面を設け、学習が生活の中で役に立つという意識を高めていきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」についての肯定割合が、県や市の平均を上回っている。クラスのよい雰囲気の中で、自分の考えや意見を発表することの良さを実感している。その良さをさらに生かせるように、クラスづくりや授業の組み立てを行っていききたい。

○「授業を集中して受けている」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」「学校での役わりや係の仕事にせきにならなくて取り組んでいる」についての肯定割合が県や市の平均を上回っている。落ち着いて生活し、分からないことをそのままにせずに教師に聞くことができている。また、学級の一員として自分のやるべきことや役割を理解し、実践できている。称賛の機会を作ること、引き続き望ましい生活を支援していききたい。

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分の行動や発言に自信をもっている」についての肯定割合が県や市を上回っている。失敗をおそれずに挑戦することの大切さや、自分の行動や発言に自信をもつ良さを実感している。引き続き支援していききたい。

○「授業の内容についてよく分かるか」についての質問では、国語、社会、算数、理科が肯定割合が県や市を上回っている。本学力調査においても調査実施の教科の平均正答率が県を上回っている。さらなる定着が図れるように、児童の学習の支援を適切に行いたい。

●「家で学校の予習をしている」の肯定割合は県や市を下回っており、「家で授業の復習をしている」の肯定割合は県や市を大きく下回っている。予習、復習の重要性について伝えたり、それによって学習の定着が図られる体験をさせたりすることで、予習、復習する習慣を身に付けさせたい。また、学年だより等で予習、復習の重要性について保護者にも知らせ、協力を得たい。

●「総合的な学習は好きですか」についての肯定割合が県や市を下回っている。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・考えの更新」などの学習の進め方に応じた支援・指導を行いたい。また、教師だけの支援・指導ではなく、個人で見直したり、友達からアドバイスをもらったり、保護者や地域の方に支援をいただいたりや多様な方法をとることで、総合的な学習のよさを実感させ、学習に対しての意欲を高め、肯定割合を増やしたい。

宇都宮市立泉が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に「話す・聞く」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。	4.5年ともに授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしいと感じている児童の割合が半数以上いる。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	本時のめあてに対するまとめを、児童と共に確認して板書し、一人一人の考えの変容や新たな疑問などを振り返り自分の言葉で書く時間を設ける。	4.5年ともに「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」における肯定的回答の割合が8割以上おり、県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答が4.5年ともに5～6割にとどまっている。	個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進	AIDリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。また、ICTを活用した学習活動の充実を図り、自ら見通しを立てたり、自己の学習状況を把握して新たな学習に取り組んだりする力を育成する。